



天橋立名松リバーズ  
だより

No. 10  
2005年10月号

編集・発行  
天橋立名松リバーズ  
発行委員会事務局

〒620-0001  
京都府京都市大塚4-3-7  
天橋立総合事業（株）1F  
TEL 077-721-5304  
FAX 077-721-5305  
http://www.tenbatac.or.jp/~re-birth/

■ あれから一年  
「松の悲鳴」をよるこびに...

松が根を張るために...  
いよいよ炭づくりスタート!

昨年10月20日、台風23号が天橋立を直撃し、約220本の名松たちが倒木して以来、まる一年を迎えることになりました。この時期、台風の新ユースが気になります。それはさておき、悲鳴をあげ、一瞬にして命を途絶えた約220本の名松たちの無念さ、そして、その強風に耐えぬいた多くの松たちが、今後共、台風に負けぬよう地中に根を張り、パワーをつけるための作業が、今回の炭づくりです。多分ほとんどの方が初体験かと思えます。何事も初めて体験することは楽しいものです。松たちのことを思い、心ワクワクしながら僕等がしよう!

■ 10月8日(土)  
炭づくり第一弾 土おこし作業完了!

大浦氏の神式によるお祓いの儀の後、みんなで土おこしをしました。トラクターをお世話になった河野さん、ありがとうございます。



土おこし作業 2005.10.8



雑草の除去、穴掘り



作業後、リバーズで懇話

■ 10月17日(月)AM9時集合 ※午前中に  
炭にするための松材割木作業 終了予定

チェーンソーをお持ちの方は、是非、ご協力ください。



■ 10月20日(木)AM9時集合

夜を徹して  
炭焼きへ!

服装  
長靴・軍手・タオル  
など各面用意  
※靴はくれなわが  
ような服装を、



● 10月21日(金)PM2時(PM1時集合)

炭となった松の一部を、  
「橋立明神(磯清水)に奉納します

◎ 天橋立名松リバーズ中間報告書

(2004年10月20日～2005年9月30日までの歩み)

「松が未来に遺すもの」発刊

これまでの名松リバーズの取り組みを無大敗した記録集です。2月1日に実施したりバーズフォーラム・ひとこと応援メッセージ・樹木医さんのお話・リバーズの歩みなどのドキュメンタリーです。  
ご希望の方は、事務局までお申し出ください。



■ 9月27日(火) 正副会長会 開催

午後8時より、ビネーランド事務所にて、会場で今後の制作・炭づくり等の事業について意見を交換し、方向性を確認しました。

## ■ シンポジウム

### 「日本三景の過去・現在・未来」

京都文化博物館で開かれる



シンポジウム 2005.9.23

9月23日(金)午後1時30分より、京都文化博物館別館ホール於、日本三景のシンポジウムが開催されました。島田多摩美大教授をコーディネーターに、伊藤氏(山城郡土資料館)・知念氏(広島県立美術館)・長谷川氏(弘前大教授)・堀野氏(禅庵寺)をパネラーに、藤野のあるシンポジウムとなりました。日本三景は、もともと神仏への信仰につながる聖地だったこと、さまざまな文学・芸能・歴史の舞台となり、それが想像力をかきたてていることなど、興味深いお話がいろいろ聞けました。会場から後世委員長が各松リパースの報告をしました。

## ● リパースへの京都市民の声

### 〔日本三景展に設置した「リパースノート」より〕



日本三景展が開催されている、京都文化博物館に設置

・私のふるさと天ノ橋立が台風により、ひどい目に合っていました。最近も橋立を歩きましたが淋しいです。倒れた松の木を生かせる樹にがんばってください。又機会があれば作品が見たいと思います。(刀城 女性)

・昔、宮島で買った松の木の系たく(飯茶用)が、油がまわって透明に年輪が浮き出して、とてもいい感じに愛身しています。大きな灯も堂々として素敵ですが、小さくて細やかな手に入れやすい品も期待したいです。(京都人)

・応援しています。がんばってください。奈良から来ました。(エリさま)

・全てが我々の心を奪いました。(高校生)

・樹木を大切に有効利用され、非常に遅く思いました。輪切りの松を拝見しましたが、年輪がつまりつており、多年風雨雪に耐えて耐えて成長してきた歴史が刻み込まれています。台風によって、松は天寿を全うし倒木となったようですが、まだまだ生きています。何卒、銘木と思われる各松を最大限生かし続けて下さい。(樹田さま)

・がんばってください。日本中の人達のためにも。(マサカズさま)

・台風により木々が倒れたりしているのを見ました。倒れた松などを生かせる為にはがんばってください。(東さま)

・あたたかさ、力強さを感じることができました。(岡野さま)

### 松材が、宮津・宮本自治会 「第二宮本会館」のオシャレな看板に!



「天橋立周辺景観まちづくり」のためのアンケートのお礼に「松メール」500枚を製作しました。

## ■ 第3回 京都観光ブランド推進研究会で 天橋立名松リパース事業を報告

9月30日(金) 京都市のキャンパスプラザ京都で開催された会場の席上で、後世委員長・細井ビジョン部会長が、各松リパースのプレゼンテーションをしました。多くの方々に関心を持っていただき、共に、貴重なご意見もいただきました。

●松材の一括集中管理に向けて  
若々と進行中！



伊藤 [京都府木区会県] 先生に  
管理状況をチェックしてもらう  
2005.9.22



松は倒れても、森クン落ちるな！  
【岩瀬倉庫 様】 2005.10.12



岩瀬倉庫が、からっぽに  
なりました



松材も岩瀬倉庫の方が、  
喜んで下さるそう！

前号でもお知らせした通り、京都府のご協力の下、分散していた松材を一括集中管理すべく、着々とその作業を進めています。

10月12日(水)には、朝9時から16人のメンバーで、岩瀬倉庫で管理していた小物の松材を「喜多倉庫」へ移動しました。一年近く保管していたので、小物の松材もよく乾燥していました。汗していただいたみなさん、本当にご苦労さまでした。

「喜多倉庫」は、松材を乾燥させるのに最適な地です。近々に、リバース館等で保管している松材も、喜多倉庫へ運搬する予定です。これで「安心！」

■第2回 京の田舎体験企画会議に出席

9月30日(金) 京都市のキャンパスプラザ京都で開催された会議に、リバースから山本事務局長が出席し、体験ツアーの受け入れなどを協議しました。

■NHK「発見 ふるさとの宝」が取材

10月25日(火) 夜、放送予定です。

10月1日～3日、NHKが名松リバースの取材で天橋立を訪れ、天橋立公園内や、府中の親子による灯籠づくり等取材されました。その様子が10月25日(火) 夜に放映される予定です。是非、ご覧ください。

●第11回 名松リバース実行委員会 開催

9月20日(火)、第11回実行委員会が、午後5時より天橋立ホテルで開催され、松材の一括管理の進捗状況・制作応募の進行・松の植つこの炭化作業等々、活発な議論を行いました。そして、大切な松材を可づくり・公共の為に活用することを確認しました。

その後、8月31日のコンサートの慰労会もかね、実行委員会発足以来、初めての懇親会を持ちました。(もちろん会費制)宮澤商工会議所会頭 竹中氏のご発声で乾杯。お話しのお酒で、楽しい楽しい懇親会となりました。会場にはあの感動的だった「8月31日チャリティコンサート」のビデオが上映され、みんな余韻にひたりました。安い会費にもかかわらず、美味しいお料理を沢山いただき、天橋立ホテルさんには本当にお世話になり、ありがとうございます。



第11回 名松 リバース実行  
委員会 2005.9.20



8月31日のコンサートが上映され、  
懇親会を盛り上げてくれました

■韓国ソウル放送局(SBS)が  
天橋立名松リバースを取材

となりの国 韓国でも最近、松が枯れたり、風の被害で倒れたりして大変だそうです。



9月21日～22日の2日間、韓国ソウル放送局 李ブン龍氏ら3人が取材にお越しになり、天橋立の松並木・傘松公園・ピューランドなどや、22日に開催された

「天橋立周辺景観まちづくり検討会」・「天橋立公園の松並木と利用を考える会」合同検討会の開催なども取材されました。



春にも、韓国の大学の教授・農林関係者が視察で来訪され交流しましたが、松は天橋立だけでなく、全国的な問題であることを感じました。

硬い松を切るのに専攻高関する学生たち—京都府園部町の京都伝統工芸専門学校で、松谷真実



# 倒木に吹き込む魂

**台風被害の天橋立**  
倒れた松に新しい命を—  
昨年10月、台風33号で倒れた日本三景の一つ、天橋立。京都市の松谷真実、仏像彫刻を学ぶ若者たちが文殊菩薩像作りを始めた。

台風では、樹齢300年以上の古木を含め約100本の松が倒れた。京都府が文化財修復や天橋立公園のベンチなどに活用する一方、京都市の

老舗彫刻社長、機世淳紀さんが「松谷真実」に頼ろうと決めた。6月には「実行委員会」を結成。募金やボランティアを募り、松を使い、たけなうコンテストなどを開いてきた。

同委員会の取り組みを知らされた松谷は、同校で乾燥させた松をノコギリで切って盛り合わせる作業を始めた。リーダー格の松原高平さん(30)は「松を再生させたい」という地元の方の思いがある。いいかげんな仕事はできない。「仏像機世さんは習志寺での安直なことを検討している。【松谷真実】

高関専攻のパー・高関専攻  
実行委員長  
機世淳紀さん(左)

昨年10月20日に府北側で猛威を振るった台風23号は、天橋立の松並木も襲った。自らが経営する老舗彫刻の文殊社も大きな被害を受けた。天橋立を守る会」の役員でもあったが、松並木の様子を見に行けたのは被災の2日後だった。



「学生の高関で助けた」程度だった。日本三景の一つで広く知られる観光地。だが、近年は交通網の発達などで沿道に伴わない旅行者の通過地との印象も強くなった。

「守る会」は、天橋立を襲う地元の東隣、常盤町に居る松谷真実と協力して、天橋立再生は成せる「われは名松にとどまらぬ」とも示唆する。【松谷真実】



れる様に倒された松の太木を目の当たりにしたとき、古木の雨なまき悲鳴が伝わり「ショックだった。それは、惨状によるものに加え、同会の他のメンバー同様、これまでの天橋立への思いを一変させたからでもある。京都市で生まれた。大学卒業と同時に新聞

奥の山間の小学校で教壇に立った。二十四の歳に共感を受けていた。その後、京都に戻り就職の時、縁あって高関専攻に携るようになった。

それまで、天橋立はその町に同業7社と協力し、温泉を頼り、温泉地の条件を整えた。そして、各旅館やホテルに設置する旅人の「出会いの場」としての「夏はなしの会」丹の風の演出をし

害は、自然との共生や自然育を後世に伝えることこの重要性を、「命ある松が身をもつて訴えた」と感じた。その「命」を受け、昨年11月に立ち上げたのが「天橋立名松リバー実行委員会」。倒木を様々な形で再生する活動を進め、名松をPRする拠点も京都市文庫に開いた。

「観光関係者だけでなく多彩な知識や専門技術を持つ多くの人々の参加と協力で、再生は成せる「われは名松にとどまらぬ」とも示唆する。【松谷真実】

# 人々の参加と協力で名松の再生を

■「天橋立周辺景観まちづくり検討会」  
「天橋立公園の松並木と  
利用を考える会」

合同検討会が、9月22日(木)開催される



第1回 合同検討会  
みやつ歴史の館 於

京都府主催で、第1回  
合同検討会が開催され、地  
域を生かした天橋立の景観  
づくりや、松並木のあるべ  
き姿、松の生垣に対しての  
関心など議論がなされまし  
た。名松リバーズから、参  
事委員長・山本事務局長・  
孫天橋立を守る会会長・伊藤京都府木匠会会長等が  
参加し、それぞれ意見発表をしました。

●リバーズ主催  
第4回「樹のお医者さんのお話」開催

「松が元気に育つために…」

これまで、府中・文殊地  
区で3回開催してきた樹の  
勉強会の会場を宮津に移し、  
9月22日 午後7時30分よ  
り、宮津商工会議所 於開  
きました。

名松リバーズの顧問であ  
り、京都府樹木匠会会長 伊藤  
先生のご講演も判りやすいお  
話は、聞く人の心を打ち、  
松がなぜ倒れたのか、倒れ  
ないために何をすべきかを  
考える研修会となりました。  
こうした市民の関心が、  
天橋立の松を育てることに  
なることを確信しました。



第4回 研修会 宮津商工会議所 於

■創作部会より

縦横アートコンテンツでは、皆さんお世話になり  
ました。今後、松と共生する町を目指して、様々な  
創作物について集案を考えています。  
乞う、ご期待！

■10月18日(火)  
第12回 実行委員会を開催します。

午前10時30分より、天橋立駅2F全構室で実行  
委員会を開きますので、多くの方のご出席を！

■「若狭湾生物同好会」でリバーズ報告

(9月22日 舞鶴 於)

9月22日(木)午後7時から、舞鶴中央公民館相  
販室において開催された、若狭湾生物同好会のピ  
チオ学習例会の貴重なお時間をお借りして、細井ピ  
ジョン部会長が天橋立名松リバーズ実行委員会の活  
動経過や、今後の方向性について報告してきました。  
30分程度の時間でしたが、約30人のご出席メンバー  
に熱心に聞いていただき、今後私たちの活動に注  
目していただくようお願いできました。

天橋立名松リバーズ基金に  
「ご協賛いただきますよう、  
心よりお願い申し上げます。」



松材の一括集中管理や、伐後管理など、  
事業は順調に進んでいます。製材などにご要する費  
用の採引に苦慮しているのが現状です。  
どうか産をお汲みとりいただき、個人さま・企  
業さまからのご協賛など、リバーズ基金へのご協力を  
を切にお願ひ申し上げます。

天橋立名松リバーズ実行委員会 事務局  
会計

■編集後記

昨年10月20日、台風23号直撃の日からはや1年を  
迎えることになりました。「2004・10・20」の悪  
夢が蘇ります。リバーズは台風23号のつめ跡から生  
まれました。この一年間、多くの方々のおまし・支  
えをいただき、松の再生をめざしひたすら走ってき  
ました。

ふり振り返るに、「2004・10・20」の教訓は、  
大なるものがあると思えます。決して風化させては  
ならないと考えます。もうしばらく、台風の風にま  
けないよう走り続けたく思えます。(サーソー)